



2014年3月期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2014年5月8日

2014年3月期の決算概要について説明します。

決算ハイライト

■ 円安により増収、増益。業績予想には利益未達成 ■ 収益改善に向け足場固めに着手
■ 米国TCVS社の品質システム改善は継続 ■ カテーテルは海外が二桁成長 ■ ニューロは継続した新製品で大きく拡大 ■ 提携なども活用し、パイプラインの仕込みを実施
■ 新製品の立ち上げ遅れ、海外工場生産性低下による収益悪化
■ 厳しい市場の中で安定した業績確保



2014/5/8

©Terumo Corporation

2/29

はじめに決算ハイライトです。全社業績ですが、円安効果を受け増収増益を達成しましたが、業績予想に対しては残念ながら利益が大幅に未達成となりました。収益改善に向けて足場固めに着手しており、これは全社における大きなハイライトであると考えています。

心臓血管において、米国TCVS社の品質システム改善が継続することになりました。部分的販売制限の解除を目指しましたが、残念ながら達成できず、13年度また14年度に収益においてマイナス要因となりました。一方、成長戦略であるカテーテルやニューロ事業は順調に進んでおり、カテーテルは海外で2桁成長、ニューロは継続した新製品の導入で大きく拡大しています。また提携も活用し、次のパイプラインの仕込みも実施してきました。

ホスピタルは、残念ながら、新製品の立ち上げ遅れ、また海外工場における生産性低下により収益が悪化しました。立ち上げが遅れている新製品は、元々高収益品なので順調に立ち直れば、今後大きく収益に貢献すると考えています。

血液システムについては、血液適正使用化の影響で厳しい環境の中、競合と比べて安定した業績を確保したと考えています。

円安により増収増益

(億円)

	12年度	13年度	増減率	為替除く
売上高	4,023	4,674	+16%	+4%
粗利益	2,057 (51.1%)	2,420 (51.8%)	+18%	+2%
一般管理費	1,254 (31.2%)	1,466 (31.4%)	+17%	
開発費	271 (6.7%)	301 (6.4%)	+11%	
営業利益	532 (13.2%)	653 (14.0%)	+23%	-1%
(のれん等償却除く)	668 (16.6%)	816 (17.5%)	+22%	-1%
経常利益	514 (12.8%)	638 (13.7%)	+24%	
(特別損益)	9	-109		
純利益	470 (11.7%)	341 (7.3%)	-27%	
期中平均レート	USD 83円 EUR 107円	100円 134円		



2014/5/8

©Terumo Corporation

3/29

決算概要について説明します。売上高は16%増の4,674億円となりました。この中には円安効果が498億円が含まれており、実力ベースでは4%伸長となりました。営業利益は23%増の653億円となりました。同様に円安効果が128億円含まれており、実力ベースでは1%減で、為替を除くと増収減益となりました。

為替の期中平均レートは、1ドル100円、1ユーロで134円となりました。今回、特別損益としてマイナス109億円を計上しています。結果として、純利益は341億円の27%の減少となりました。

特別損益

(億円)

主な特別利益

受取和解金	60
-------	----

主な特別損失

減損損失	154	不採算部門の資産を減損
------	-----	-------------

心臓血管	76
------	----

ホスピタル	35
-------	----

等



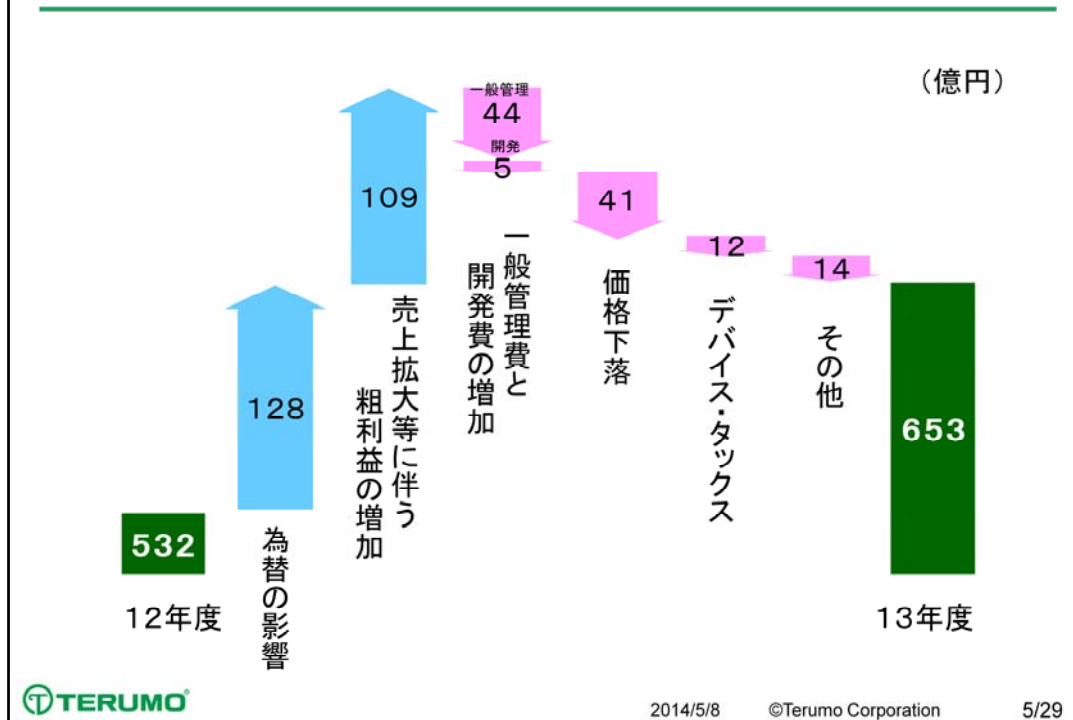
2014/5/8

©Terumo Corporation

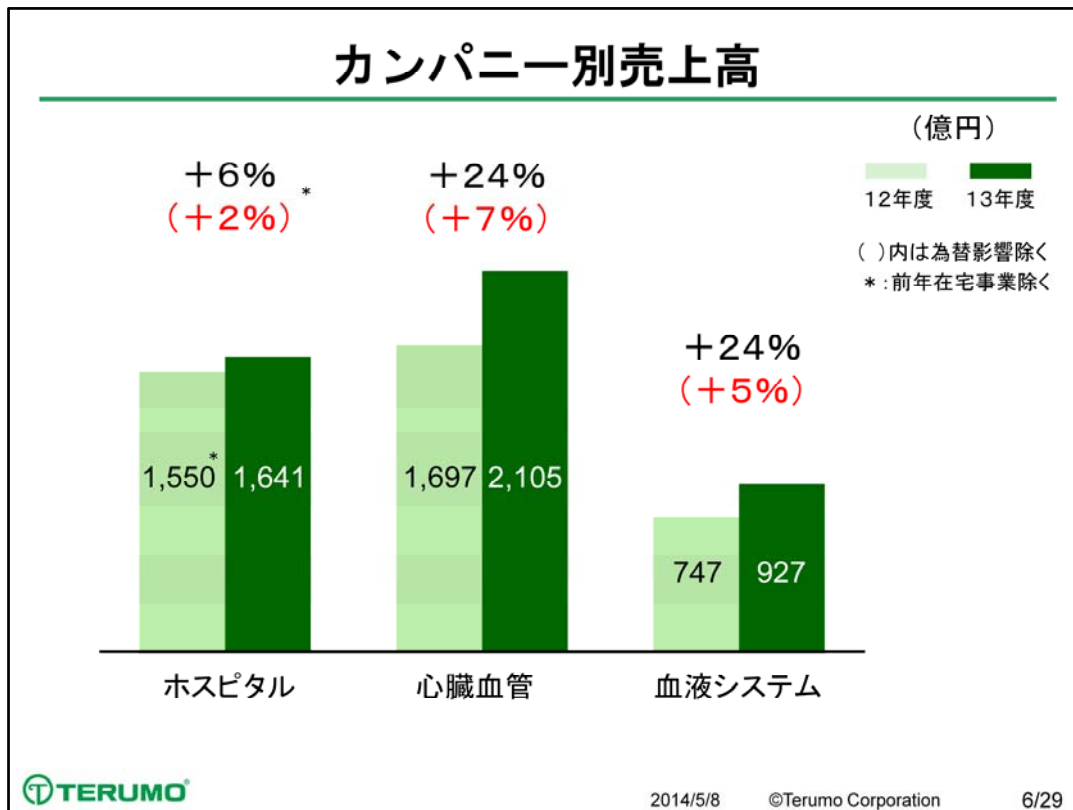
4/29

このスライドは特別損益についてです。主な特別利益として、3Qに計上しました受取和解金が60億円あります。特別損失としては、不採算部門の資産を減損しています。主な内訳は心臓血管で76億円、ホスピタルで35億円です。この心臓血管分のうち、70億円がCV事業に関連する固定資産に関する減損で、ホスピタルは輸液に関わる設備を減損しています。これら不採算部門の資産を減損することによって、次の収益改善に結び付けていきたいと考えています。

営業利益増減分析



営業利益は12年度の532億から653億円となりましたが、その増減分析を説明します。為替の影響がプラス128億円、売上拡大に伴う粗利益の増加が109億円、それに対し一般管理費、開発費、価格下落、デバイスタックスなどが粗利益の増加を吸収し、為替の影響を除くと全体としては若干の減益となりました。



今回からカンパニー軸での収益について情報を加えて説明していきます。まずカンパニー別の売上高です。黒字で書かれた実勢レートでの伸長ですが、ホスピタルで6%、心臓血管24%、血液システムが24%と、海外比率の高い二つの事業が高い伸長を示しています。為替の影響を除くと、ホスピタルは2%伸長であり、欧米での低収益ビジネスの整理の影響を受けています。心臓血管は7%伸長ですが、収益の柱であるカテーテルは10%の高成長を維持しました。血液システムは、競争を含めて厳しい環境の中、日本・中国・アジアで伸ばし5%成長となりました。

カンパニー別事業利益

(億円)

		12年度	13年度	増減率	為替除く
事業利益	ホスピタル	236 (15%)	208 (13%)	-12%	-16%
	心臓血管	291 (17%)	439 (21%)	+51%	+14%
	血液システム	138 (18%)	186 (20%)	+35%	+4%
	その他※	2	-17	-	
営業利益 (のれん等償却除く)		668	816	+22%	-1%

※その他：カンパニーに直接関連しない項目



2014/5/8

©Terumo Corporation

7/29

このスライドは、のれん等償却費を除く、カンパニー別の事業利益です。
 ホスピタルカンパニーは、為替を除くとマイナス16%、心臓血管はプラス14%、血液システムはプラス4%で、全体ではマイナス1%となりました。
 これからカンパニー毎に説明します。

ホスピタルカンパニー：売上微増も収益は悪化

(億円)

	12年度	13年度	増減率	為替除く
売上高	1,550	1,641	+6%	+2%
事業利益 (率)	236 (15%)	208 (13%)	-12%	-16%

在宅輸液・酸素事業を除く

- 基盤医療器は新製品立上げ遅れによる収益悪化、海外工場で生産性低下(▲16億)
- 医薬品は輸液関連製品の品種ミックスによる収益性が低下(▲10億)
- 国内でプレフィルドシリンジニ桁成長、血糖測定器・ナノパスが拡大



2014/5/8

©Terumo Corporation

8/29

まずホスピタルカンパニーです。為替影響を除いた増減で、売上高はプラス2%、事業利益はマイナス16%となり、売上微増、収益悪化となりました。収益悪化の要因ですが、一つは基盤医療器の新製品の立ち上げ遅れによる収益悪化、そして海外工場での生産性低下があり、合わせて16億円のマイナス要因がありました。

また、医薬品は輸液関連製品の品種ミックスによる収益性の低下でマイナス10億円に、通常ある価格下落を加え、全体としてマイナス16%の事業利益の減益となりました。新製品の当初の狙いは、高収益品として次の柱にと考えておりましたが、立上げのトラブルでマイナス要因になっています。時間はかかりますが、次のステップで収益貢献の柱になると考えています。

心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	12年度	13年度	増減率	為替除く
売上高	1,697	2,106	+24%	+7%
事業利益 (率)	291 (17%)	439 (21%)	+51%	+14%

- カテーテルはアクセス製品を中心に海外で二桁成長、国内はペリフェラルステントMisagoが大きく貢献(+32億)
- ニューロでは新製品(ステント、バルーン)がグローバルで拡大(+5億)
- ベトナム生産移管によるコストダウンを順次拡大
- 戦略的提携を通じたパイプラインを拡充(ART、カネカ、FMD)



2014/5/8

©Terumo Corporation

9/29

次に心臓血管カンパニーです。売上高は7%増、事業利益は14%増と、増収増益を達成しています。TCVS社の品質システムの改善といったマイナス要因がありますが、それを吸収してプラス成長にもってきています。

カテーテルは、アクセス製品を中心に海外で2桁成長、国内はペリフェラルステントMisagoが大きく貢献し、利益においてカテーテルでプラス32億円の貢献です。ニューロは継続した新製品の開発と販売開始、グローバルに展開した結果、利益でプラス5億円の貢献です。併せて、コスト改善を目的にベトナム工場への生産移管を進めています。また、ART、カネカ、FMD等との戦略的提携を通じて、次の柱となる製品パイプラインの拡充を進め、更なる成長を加速させていきたいと思っております。

血液システムカンパニー：厳しい環境下で拡大

(億円)

	12年度	13年度	増減率	為替除く
売上高	747	927	+24%	+5%
事業利益 (率)	138 (18%)	186 (20%)	+35%	+4%

- ▶ 先進国では、欧州で血液自動製剤装置、日米で治療アフェレシスなど高付加価値製品を拡大
- ▶ アジア・中南米で二桁成長を実現
- ▶ インドで増産、ベトナムで工場準備



2014/5/8

©Terumo Corporation

10/29

次に血液システムカンパニーです。厳しい環境下で拡大し、売上高は5%、事業利益で4%伸長の結果となっています。

欧米では血液の適正使用化や価格下落などで厳しい環境ではありましたが、欧州で血液自動製剤装置、そして日米で治療アフェレシスなど高付加価値の製品を拡大することができました。併せて、アジア・中南米で二桁成長を実現しました。また今後も成長を期待し、インドで増産、そして収益改善に繋がるベトナムでの工場生産の準備を進めています。

営業利益は業績予想に達せず

(億円)

	13年度 業績予想	13年度 実績
営業利益	700	653

期中平均レート USD 100円 100円
 EUR 134円 134円

- ホスピタル：国内売上未達・新製品立ち上げ遅れによる収益悪化 ▲ 35億
- 心臓血管：米国TCVS社の品質システム対応に伴う影響 ▲ 30億
 カテーテルは売上拡大と販管費抑制で利益を確保 + 8億
- 血液システム：売上確保と 販管費抑制等で利益確保 +10億



2014/5/8

©Terumo Corporation

11/29

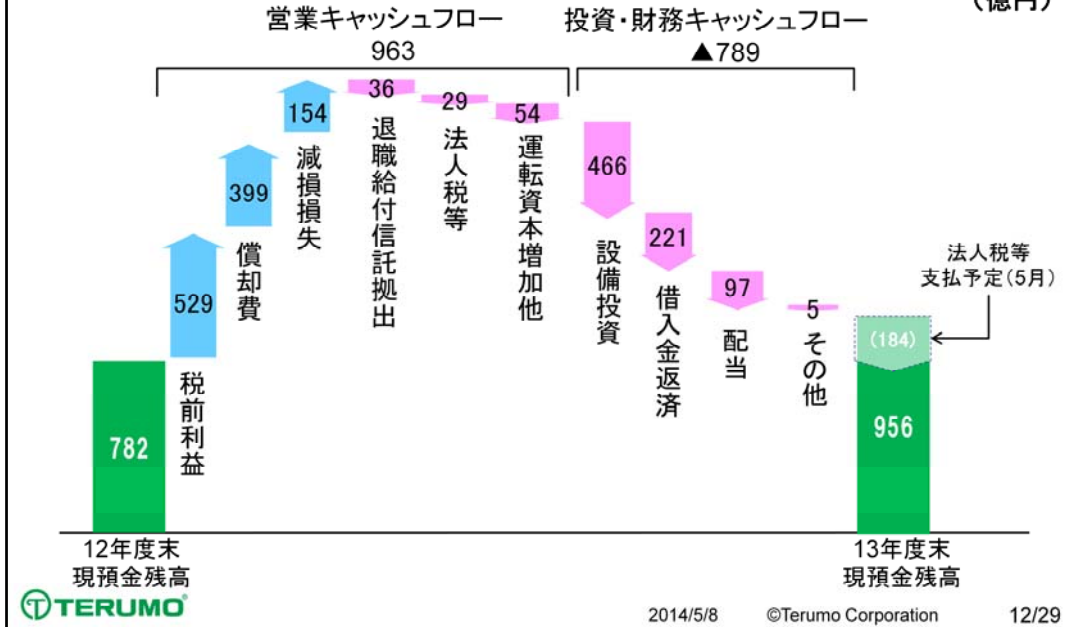
次に営業利益です。13年度業績予想として700億円を提示しましたが、残念ながら実績では653億円となり、皆さんの期待に応えられない結果となりました。その差について説明したいと思います。

要因としては、ホスピタルでは国内の売上未達、新製品の立ち上げ遅れによる収益悪化で35億円。心臓血管では、品質システム改善に伴う影響で30億円。それ以外では、カテーテルと血液システムでプラスがあり、マイナスを若干打ち消しましたが、結果として47億円業績予想に対してビハインドとなりました。

キャッシュフロー

成長投資・借入金返済・株主還元をバランス良く実施

(億円)



次にキャッシュフローです。12年度末の現預金残高782億円に対して、営業キャッシュフローとして、税前利益・償却費・減損損失等があり、プラス963億円となりました。それに対し、設備投資・借入金返済・配当等を含むマイナス789億円の投資・財務キャッシュフローがあり、最終的な13年度末の現預金残高は956億円となりました。キャッシュは170億円程増えておりますが、5月に予定しています法人税等の支払いに充てる為、相対的には現預金残高は横ばいというコントロールをしています。

14年度業績予想

年間想定レート 米ドル 100円
ユーロ 140円 (億円)

	14年度 予想	対前年 増減率
売上高	4,880	+4%
営業利益	640 (13%)	-2%
経常利益	620	-1%
純利益	375	+10%

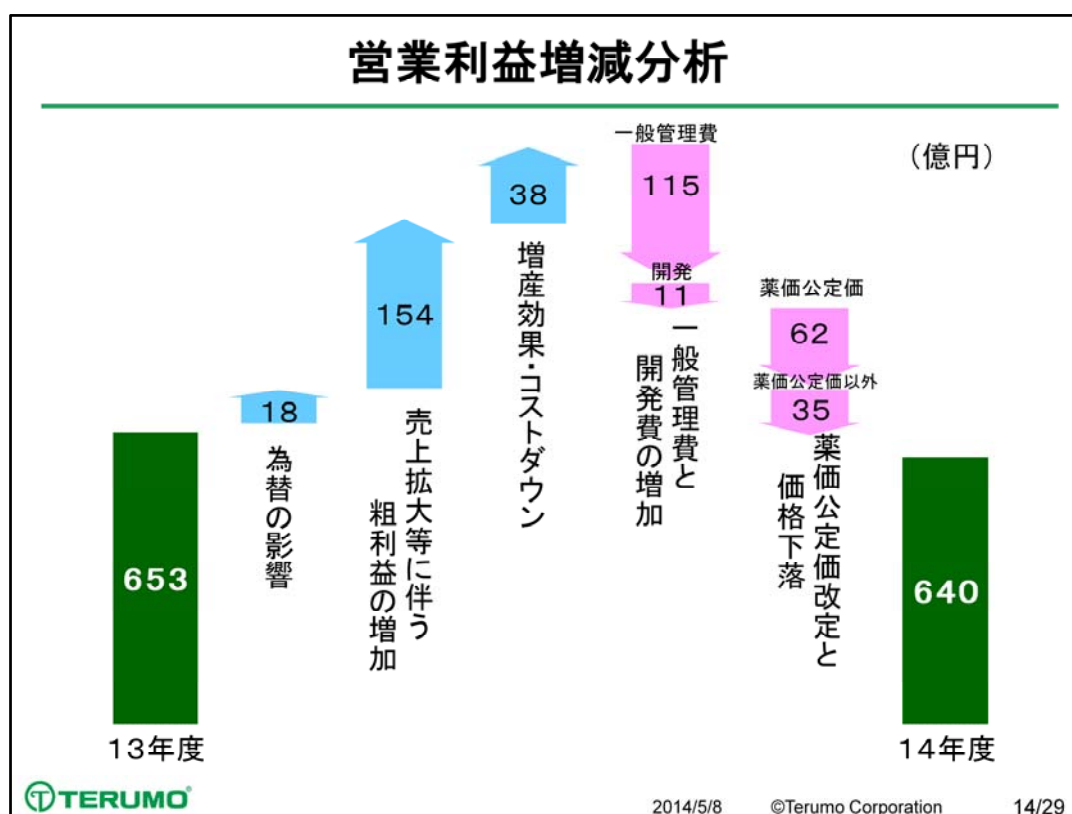


2014/5/8

©Terumo Corporation

13/29

次に14年度の業績予想です。年間想定レートは、1ドル100円、1ユーロ140円を想定しています。この想定レートの条件において、売上高は4,880億円、営業利益は640億円、経常利益は620億円、純利益は375億円を予想しています。売上高は前年比プラス4%、営業利益はマイナス2%と、残念ながら14年度は増収減益と考えております。



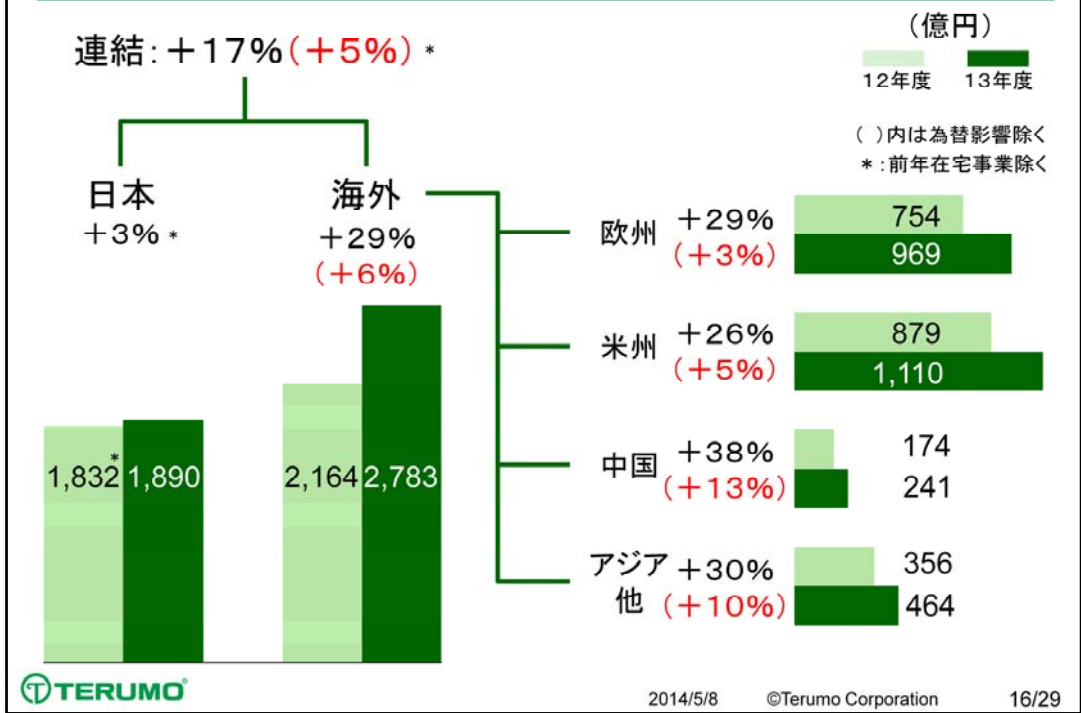
14年度の営業利益予想に対する増減分析を説明します。13年度の営業利益653億円に対して、14年度は640億円を予想しています。為替の影響は、若干円安が進むと想定しておりプラス18億円、心臓血管を中心とする売上拡大をともなう粗利益の増加で154億円、さらに13年度のマイナス要因の改善を含めた増産効果・コストダウンで38億円を予定しています。

それに対し、販管費115億円と開発費11億円の増加、2年に1度の薬価公定価改定のマイナス影響62億円を想定しております。改定分の内訳は、心臓血管で46億円、ホスピタルで16億円と考えています。

14年度は、増収減益と厳しい内容ではありますが、先程の説明にもありましたように、足場固めの年として、13年度の課題を回復するとともに、14年度は結果を出すことによって、更に次の成長に向けて取り組んでいきたいと思っております。

参考資料

売上高 地域別



販管費

(億円)

	12年度*	13年度	増減	増減率
一般管理費計	1,422	1,466	+44	+3%
研究開発費	296	301	+5	+2%
販管費合計	1,718	1,767	+49	+3%

* 為替の影響を除いた換算値

- 米州(カテ・ニューロ)の販売力の強化
- ニューロ新製品、血液システム(治療アフェレシス・血液自動製剤システム)へ開発費を投下

販管費

(億円)

	12年度	13年度	増減	増減率
人件費	532	638	+106	+20%
販促費	125	142	+17	+14%
物流費	102	105	+3	+4%
償却費	183	227	+44	+25%
その他	312	354	+42	+13%
一般管理費計	1,254 (31.2%)	1,466 (31.4%)	+212	+17%
研究開発費	271 (6.7%)	301 (6.4%)	+30	+11%
販管費合計	1,525 (37.9%)	1,767 (37.8%)	+242	+16%

()内は対売上高%



2014/5/8 ©Terumo Corporation

18/29

売上高と伸長率（累計）

（億円）

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	1,258 (1%)	383 (3%)	123 (-3%)	88 (-5%)	13 (-1%)	159 (12%)	1,641 (2%)
心臓血管	495 (7%)	1,611 (7%)	590 (4%)	654 (8%)	190 (15%)	177 (5%)	2,106 (7%)
うちカテーテル	382 (9%)	1,206 (10%)	465 (8%)	423 (12%)	180 (15%)	137 (8%)	1,587 (10%)
血液 システム	138 (7%)	790 (5%)	256 (3%)	368 (3%)	37 (9%)	128 (16%)	927 (5%)
合計	1,890 (2%)	2,783 (6%)	969 (3%)	1,110 (5%)	241 (13%)	464 (10%)	4,674 (4%)

下段（ ）内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く



2014/5/8

©Terumo Corporation

19/29

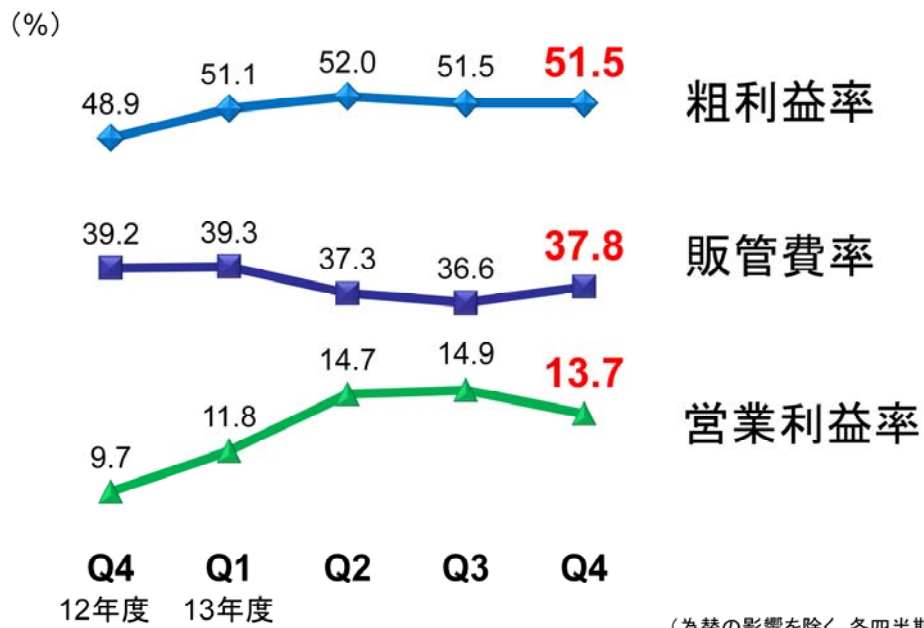
事業別 地域別売上高と伸長率 (Q4のみ)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	301 (6%)	100 (-1%)	37 (2%)	22 (-16%)	4 (35%)	38 (4%)	402 (4%)
心臓血管	127 (10%)	439 (8%)	159 (1%)	177 (9%)	53 (19%)	51 (21%)	567 (8%)
うちカテーテル	97 (10%)	334 (12%)	126 (3%)	119 (15%)	51 (20%)	38 (22%)	431 (11%)
血液 システム	41 (21%)	212 (6%)	71 (4%)	91 (-0%)	11 (17%)	39 (27%)	253 (9%)
合計	469 (7%)	752 (6%)	267 (2%)	290 (4%)	68 (19%)	127 (17%)	1,221 (7%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

利益率・販管費率の推移（為替の影響を除く）



（為替の影響を除く、各四半期の3ヶ月単位）

2014/5/8

©Terumo Corporation

21/29

四半期の動き

(億円)

	FY12Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上高	1,065	1,111	1,149	1,192	1,221
粗利益	522 (49.0%)	570 (51.3%)	601 (52.3%)	615 (51.6%)	633 (51.9%)
販管費	416 (39.1%)	437 (39.3%)	430 (37.4%)	437 (36.7%)	463 (37.9%)
営業利益	106 (9.9%)	133 (12.0%)	171 (14.9%)	178 (14.9%)	170 (14.0%)

期中平均	US\$	92円	99円	99円	100円	103円
レート	EUR	122円	129円	131円	137円	141円



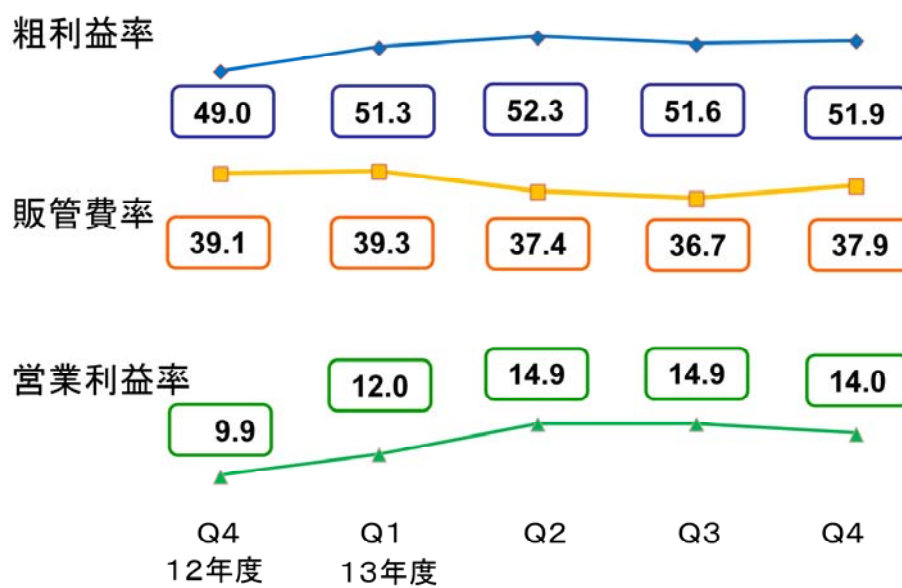
2014/5/8

©Terumo Corporation

22/29

利益率・販管費率の推移（期中平均レート）

(%)



(各四半期の3ヶ月単位)



2014/5/8

©Terumo Corporation

23/29

設備投資と研究開発費

(億円)

	13年度 見通し	13年度 実績	14年度 見通し	前年比 増減
設備投資	500	466 (93%)	420	-46
償却費	370	399 (108%)	410	+11
研究開発費	300	301 (100%)	310	+9

%：対年間見通し割合

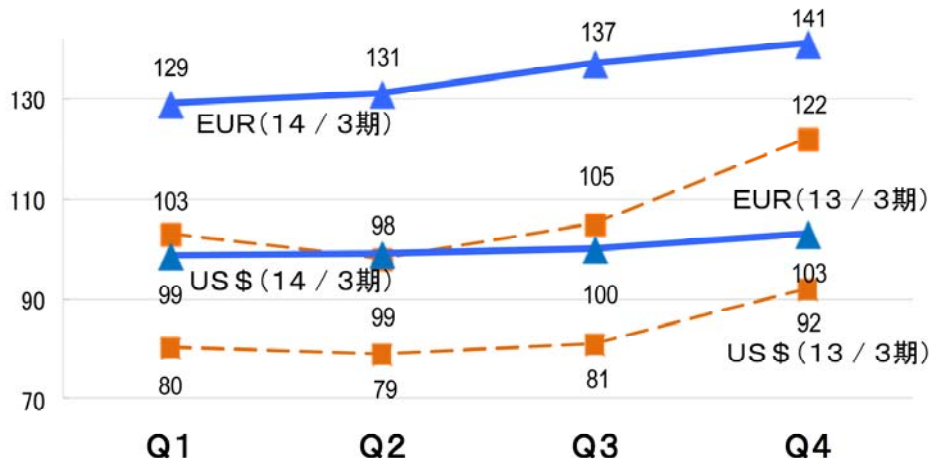
のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

為替感応度

(億円/年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

13年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	領域	製品	地域
ペリフェラル	ステント(膝上)	日	血液システム	自動血液製剤(PRP法)	欧
	バルーン(膝下)	欧 FY14		自動血液製剤(BC法)	欧
	ステント(膝下)	欧 FY14		成分採血装置(血漿)	日 FY14
脳	コイルアシスト・ステント	中		統合データ管理システム(TACSI対応)	欧
	血流改変ステント	欧		細胞治療用装置(骨髄幹細胞対応)	日
	オクリュージョン・バルーン	日		閉鎖式輸液ライン	日
心臓	新PTCA/バルーン	日	輸液システム	安全機構付き静脈留置針	米・亜
	OFDI	日		高機能輸液・シリンジポンプ	欧
	TRI用細物シース	米			
アブレーション	腎除神経カテーテル	欧			
	TRI腎除神経カテーテル	欧			

14年度パイプライン製品

領域	製品	地域	領域	製品	地域
ペリ フェラル	バルーン(膝上)	米	血液 システム	自動血液製剤	日
	バルーン(膝下)	日米		細胞治療用装置 (顆粒球・骨髄幹細胞)	米
脳	コイルアシスト・ステント	米	輸液 システム	閉鎖式輸液ライン	亜
心臓	新DES(自社開発)	欧		高機能輸液・ シリンジポンプ	中
	アブレー ション	腎除神経カテーテル	亜・南米		
		TRI腎除神経カテーテル	亜・南米		

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。